

小見山定三・前取締役が社長に就任

サンエー・インターナショナルが新体制

9月1日付で、サンエー・インターナショナル(以下、サンエー)の社長に小見山定三(ていぞう)・同社前取締役が就任した。押木源弥前社長は、兼務していたアングローバルの社長の専任になる。親会社のTSIホールディングスが5月に発表したブランド廃止や店舗閉鎖でサンエーが取り扱いを止めたブランドは、「ボデイドレッシング」、ニューヨークの「レベッカミンコフ」、子ども服の「ジル スチュアート ニューヨーク」と「バービーキッズ」だ。現在、同社が保有するブランドは、ニューヨークの「ダイアン フォンファステンバーグ」(以下、ダイアン)、「ヴィヴィアンタム」「ジル スチュアート」、国内ブランドの「ヒューマンウーマン」「アドーア」の5ブランド。旧サンエー・インターナショナルは、2014年3月に「ナチュラルビューティベーシック」「プロポーションボデイドレッシング」などを保有するサンエー・ピーディー、「バーリーゲイツ」「キャロウェイアパレル」などを展開するTSIグループブランドスポーツ、サンエー・インターナショナルの3社に分割し、TSIホールディングスの子会社になっている。

また、9月1日付で、TSIホールディングスの子会社だったユニット&ゲストがサンエーの子会社になった。ニューヨークの「レ

ベッカミンコフ」は、現在、卸業務をユニット&ゲストが行っており、サンエーが運営する「ダイアン」も卸のみ同社が請け負っていることから、「連結子会社にした方が運動しやすい」という経緯から子会社化した」と小見山社長。

今後のサンエーの指針については、「来年度は、現在の5ブランドで売上高132億円、営業利益率4.3%を目指し、それに向けた施策を打ち出す。それにはECの強化、アジア進出、出店の精査、新しいビジネスモデルの開発がカギとなる」。

現在5ブランドの中で、売り上げ上位は「ヒューマンウーマン」「ジル スチュアート」「アドーア」と続く。「とくに国内ブランドにおいては、今後、アジア戦略を強化していきたい。「アドーア」は年内に香港に1店舗オープンさせたい」。また、アウトレットに関しては、「ジル スチュアート」と「ヒューマンウーマン」を5、6店舗、それ以外は1店舗体制にするという。「これまでブランドごとに販路が固まっていることが多かったが、EC、アウトレット、卸、直営店、百貨店、海外全ての販路を柔軟に捉えて、再度戦略を練る」。

さらにECサイトの強化では、「ダイアン」を皮切りに、各ブランドの世界観を踏襲したECサイトを10月から来年2月にかけて、

順次ローンチする予定だ。全体の売り上げに対するEC化率を2年後には20%にまで引き上げるといふ。「ダイアン」は、8月21日に京都・河原町通りにグランドオープンした京都パルに出店。また、日本のみのライン「DVF STUDIO」をスタートさせ、ベーシックなドレスやニットなどコーディネートできるアイテムを拡充している。一方、「ジル スチュアート」は、10月に青山に路面店をオープンする(港区南青山3-18-15)。地下と1階併せて132㎡のスペースだ。「青山にブランドの世界観を表現するショップは欲しいと思っていたし、インバウンドも狙っている。コスメや雑貨も集積したような複合ショップにしたい」。

新ブランドや新業態の開発については、「可能性としてないわけではないが、現在の5ブランドをしっかりと強化することが最優先。これまで海外のブランドを日本にインポートし、日本マーケットに合わせたリプロダクションの商品を作るといったビジネスモデルとは異なる、これまでやって



PHOTO BY SHUHEI SHINE

小見山定三/サンエー・インターナショナル社長

PROFILE:1965年3月5日生まれ。岡山県出身。87年3月サンエー・インターナショナルに入社。97年9月J/S 事業部長に就任。2007年9月に執行役員に就任。10年11月取締役役に就任。14年3月にサンエー・インターナショナルが分社。15年9月から現職

こなかったビジネスモデルの構築も必要になってくる。今、興味があるのは若手の日本人デザイナー。30代で良いクリエイションをしているデザイナーが結構いる。彼らと一緒に組んで海外へ進出するのも面白いのではないかと思う」。